「救いは近い、しっかり立て」イザヤ書 46 章 1-13 節 レジメ

2024.7.21　礼拝

序論）

- 現代人がいざという時に頼りにするもの：
  1. 人（家族、友人、専門家など）
  2. 物（お金、保険、技術、知識など）
- 多くの人は神様よりも人間関係や物質を頼りにする傾向がある
- 本日の箇所：この世の偶像よりも【主】のみが救いを与える神であることを強調している。

みことばの背景）

- バビロン捕囚を経験するイスラエルに対する【主】のメッセージ
- イスラエルの人々は、バビロンの捕虜となった後も偶像礼拝を続けていた

1. バビロンの神はお荷物になる（1-2 節）

- ベル（マルドゥーク）とネボ：バビロンの主要な神々
- これらの偶像は戦争に負けると、ただの重荷となって敵に捕らわれている

2. 【主】は民を運ぶ救いの神（3-4 節）

- 【主】はイスラエルを胎内にいた時から白髪になるまで彼らを担い、生涯にわたって支える
- 偶像と【主】の違い：
  - 偶像は、人の重荷となる
  - 【主】は、人を支え、救い続ける

3. 【主】と偶像を同じような存在だと思うな（5-7 節）

- 偶像は人間が作ったもので、自力で動くことも守ることもできない
- 【主】は最初から最後まで民を守り、救う

4. 【主】の民よ、しっかり立て（8-9 節）

- 【主】がイスラエルを支え、助け続けてきたことを思い出す
- 8 節の「勇み立て」とは、「男らしさを示せ」（ヘブル語直訳）「しっかりせよ」（新改訳第三版）のことで、【主】を信じ、従って歩む人になること

5. 事をなすのは【主】である（10-11 節）

- すべての物事を計画し、実行するのは【主】
- 人生の計画や成就は、結局のところ【主】の御手にある

6. 【主】の救いは近い（12-13 節）

- 【主】は「正義から遠く離れている者たち」に義を近づける
- 【主】の救いは遅れることがない

結論）

- 偶像（現代の偶像を含む）は重荷にしかならない
- 【主】を信じ、身を委ねることが大切
- 【主】にとって「しっかりもの」とは、自分の力で足掻く人ではなく、【主】を信じて身を委ねる人のこと
- 私たちを最初から最後まで助け導く【主】にすべてを委ねて歩んでいく